



平成 26 年 2 月 10 日

各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社
代 表 者 名 取締役社長 小 崎 隆 司
(J A S D A Q ・ コード 8 7 0 5)
問 合 せ 先
役 職 ・ 氏 名 取 締 役 杉 本 卓 士
電 話 0 3 - 5 5 4 3 - 8 7 0 5

平成 26 年 3 月期第 3 四半期の連結業績見通しに関するお知らせ

平成 26 年 3 月期第 3 四半期累計期間（平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日）の連結業績につきましては現在集計中ではありますが、決算の概要がまとまりましたので、業績見込みをお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 26 年 3 月期第 3 四半期累計期間の連結業績見込みおよび業績との差異

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前年同期実績 (平成 25 年 3 月期第 3 四半期累計期間) (A)	3,683	47	156	52
当期実績見込み (平成 26 年 3 月期第 3 四半期累計期間) (B)	3,864	533	598	478
増 減 額 (B-A)	181	486	442	426
増 減 率 (%) (ご参考) 平成 25 年 3 月期実績	4.9	—	282.1	814.1

2. 差異が生じた理由

当第 3 四半期連結累計期間におけるわが国経済は、金融緩和や各種経済対策の効果から公共投資の増加が続くなか、企業の設備投資も持ち直し、雇用情勢の改善で個人消費が底堅さを増すなど、回復傾向を持続しました。

商品市況は、貴金属が米国株高を背景として下落傾向となり、穀物は米国の干ばつ懸念での上昇から供給不安の後退により反落、石油は中東情勢を映して上下に振れたものの概ね横ばいで推移し、全国市場売買高は38,225千枚（前年同期比95.5%）となりました。

このような状況のなか、当社グループの中核事業である商品取引関連事業における受取手数料は3,468百万円（前年同期比109.4%）となりました。また、売買損益につきましては、石油市場における売買損益が減少したこともあり、36百万円の利益（前年同期比18.8%）となりました。

この結果、営業収益は3,864百万円（前年同期比104.9%）となる見込みであります。また、営業費用につきましては、事業再編による経費削減効果もあり、3,330百万円（前年同期比91.6%）となる見込みであります。これらにより、営業利益は533百万円（前年同期は47百万円の営業利益）、経常利益は598百万円（前年同期比382.1%）、四半期純利益は478百万円（前年同期比914.1%）をそれぞれ計上する見込みであります。

以 上